

第3回環境配慮設計と材質表示等に関する意見交換会

1. 開催日時:平成 23 年5月 26 日(水)14:30～16:30

場所:公益財団法人日本容器包装リサイクル協会大会議室

2. 議事次第

(1) 容器利用事業者プレゼンテーション

(2) 消費者団体プレゼンテーション

(3) 質疑応答・意見交換

(4) 当意見交換会の感想と今後の抱負等

3. プレゼンテーション概要

【容器利用事業者のプレゼンテーション】

「食品容器包装の環境配慮設計の取り組み」

○食品の容器包装に求められる機能

・商品の中味の顆粒は非常に香りが大切であるため、120g 箱で内容物をきちんと守ってあげなければいけない。袋は紙やアルミ箔、プラスチックの複合材料で、厚さは 0.05mm。酸素や光、水蒸気、臭いや微生物等から内容物を保護しています。要求性能として、香りや味の賞味期限は 1.5 年を確保しなければなりません。環境配慮ももちろん大事ですが、食品ですので、一番先に来るのは安心・安全です。

・容器包装の機能は、取扱いやすさと情報の提供、外箱には商品名や絵柄以外に重量・使用例・賞味期限・商品の特徴・アレルギー・使用上の注意等々、皆様にお伝えするという役目です。

○食品容器包装の特徴

・包装形態は圧倒的にプラスチックが多い。プラスチック容器包装の約 55%が食品関連です。

・使われているプラスチックも多種多様で、PE(ポリエチレン)や PP(ポリプロピレン)、PET(ポリエチレンテレフタレート)、PS(ポリスチレン)、PVC(ポリ塩化ビニル)、PVDC(ポリ塩化ビニリデン)等、PVC や PVDC は塩素を含有しています。

・特徴は複合材の利用です。プラ同士や紙、アルミ等と複合することで、目的である内容物の保護(食品によって要求機能が異なる)と最小の資源使用を達成しています。

○食品容器包装の廃棄の側面

・食品容器包装の残渣は油分を含んでいたり、腐敗しやすいものが多いです。

・品質保証期間により、未開封での廃棄もかなりあります。

・「食品容器包装廃棄物は、材料リサイクルでリサイクルするだけでなく、その廃棄物の状態に合わせたリサイクル、またはリサイクルにこだわらない処理の方法を考える必要があるのではないのでしょうか。

○新製品を出す際や既存製品の包材を変更する際に取組んでいる品質アセスメント

・原料や製造工程、製品、包材、表示を吟味し、それぞれについて適法性や安全性、社会性、品質管理対応、包装流通使用適性、環境保護対応等をチェックします。

・設計の指針である容器包装エコガイド、容器包装エコインデックス評価や設計上の留意点等、ガイドラインに従って設計をしています。

・容器包装設計において、設計ガイドラインとエコインデックスを 20 年以上運用しております。

・評価項目を法律改正や時代要求に合わせてバージョンアップしています。現在はバージョン8です。

・省資源や温暖化防止についての各項目が、プラスになれば環境配慮面では良好ですが、マイナスはあまり良くありません。

- ・再生素材は、リサイクルシステム適合性、既存のリサイクルシステム適合素材を使用しているかを評価します。
- 環境配慮推進による包材の変化とリサイクル適性
- ・びん容器で半分以上が包材重量だったものをプラに変更し、リデュース 93%減、リキャップによる保存性の向上、約 1.5 倍の輸送効率アップに成功した。しかし、びんという単一素材がプラという複合素材になってしまいました。
- ・包装設備変更は計画性が必要で、急な変更は難しいです。
- ・環境に配慮した商品を出しても、売れるとは限りません。企業の期待と消費者の行動が一致するとは限りません。
- ・環境に配慮した商品を消費者が選んでくれることが、我々の大きな励み、環境配慮設計の大きなインセンティブとなります。
- ・積層フィルムと単層フィルムのバリア性は異なります。単層にすると樹脂量は大幅に増えることとなります。
- ・塩素系(PVC、PVDC)プラスチックを食品で使い続けていますが、今も使わざるを得ない状況です。表示等で消費者が分別しやすい工夫が必要だということになります。

【消費者団体のプレゼンテーション】

「環境配慮設計と材質表示等に関する一般消費者向けアンケート結果の考察からの提案」

○消費者の疑問

- ・多かったのが排出する時のルールです。「なぜ同じプラスチックなのに、回収されるものとされないものがあるのか」疑問に思っています。資源を有効利用するために分別するわけですから、そういった根本的なところを知らない消費者については、「同じプラスチック、リサイクルできるものをなぜ出してはいけないのか」という基本の理解が進んでいないのではないのでしょうか。
- ・またリサイクルというと、普通は新しいものに生まれ変わる、例えば「プラを出せば、当然、マテリアルにリサイクルするだろう」と思って分別している消費者が多いと思います。
- ・マテリアルを前提にすると「どこまで汚れたものを出していいのか」「洗えば出しているのか」、「ラミネート等の複合素材は、一体どちらに出したら良いか」、ラップも家庭で使うものと商品を包むものがあり「これは出しているのか、どうなのか」という疑問が生じます。
- ・マテリアルではなく、ケミカルもしくはサーマルを前提とした場合、「熱にするので、汚れていても出しているですよ」というような説明を受けると、サーマルに出すものと燃えるごみで出すのとどう違うのか。「どうせ燃やすのだったら、わざわざ分別しなくても燃えるごみに出せばいいじゃない」という消費者もいます。
- ・「サーマルに出すのだったら、マヨネーズや歯磨きのチューブ等、汚れたままでもいいのでは、やはり出してはいけないのかしら」と迷っている消費者も多く見られます。
- ・意識の高い消費者になると「塩ビが使っているラップ類はどれも出しているのか」、ウインナーの袋に塩素系プラスチックを使っているものとないものがあると知っている消費者は、ウインナーの袋についても同じように迷っています。
- ・「マークが小さく、見えにくい」。そのため表示を確認するのではなく、「ただ感覚で排出」してしまっています。
- ・「プラ・紙・アルミの複合素材は分別に迷うので、使わないで欲しい」という声も、「なぜ、このような複合素材が必要なのか」が消費者に届いていないので、「分別に迷うものは使わないで欲しい」に繋がっています。
- ・プラマーク以外に PP や PS 等の素材が付いているので、「これは、消費者がそこまで分別する必要があるから付いているのか」というように誤解しています。

○消費者からの要望

- ・「複合素材の多層フィルムは、少量なら混入しても処理可能」という「少量」という表現や、汚れも「どのくらい取れば良いのか悪いのか」が、消費者には非常に分かり難いと思います。
- ・積層フィルムと多層フィルムの違いも分かりません。また、塩ビを使っている積層フィルムや有機インクがリサ

イクルの弊害になると伺いましたが、使う必要性があるならば、排出時に混ざらないようにする仕組みが必要ではないでしょうか。

・製造事業者同士でお互い話すのではなく、「どういう経緯でこうなったのか」を消費者や行政にも見える形で、話し合いを行って欲しいと思います。

・「消費者の分け方が悪いから、リサイクルがなかなか進まない」ではなく、消費者への分別時の情報をきちんと説明して頂き、役割や機能を明確にすること。その辺りの啓発を是非お願いできればと思います。

・事業者が考える環境配慮設計と消費者の考える環境配慮設計というのは、根本のところでは大きな違いがあることを認識した上での情報提供が必要であると思います。

・消費者は「容器をできるだけ使わないのが良い」と考え、マイバッグを持参したり、過剰包装に反対したりします。容器の機能を考える前に「ないほうが良い」と考える消費者がまだ多いです。

・これに対し、事業者側は「容器には機能が必要であり、機能性を確保しつつ軽量化・薄肉化に努力している」と説明されますが、その容器として必要とされる機能や、それによる環境効果の説明が、しっかりと詳しくなされれば、消費者の理解も進むと思います。PVC や PVDC、積層フィルムの高品質保持のための容器包装の役割等の情報を知らないために、単に分別のことだけを考えてしまうのではないかと考えます。

○最も消費者と接点がある流通事業者への要望

・販売店店頭での情報提供が非常に大切だと思っています。それと同時に、流通事業者からの情報提供があまりにも少ないのではと思います。

・環境配慮設計に関する情報は、商品を置く場所で提供することが一番重要ではないかと思いますが、まだまだ足りていません。

・今は店頭で色々なものを分別回収していますが、トレイや PET ボトルだけでなく、容器包装についてももう少し広がった形での回収拠点になることも大切ではないでしょうか。

・そうすることで、消費者がお店で商品を手取る際、3Rの購買行動に繋がるような売り方や売り場設計にして頂きたいなと思います。

○市町村への要望

・市町村は市民への情報提供の役割があると思っているのですが、市町村ごとに分別収集のルールが異なる点が、消費者が分別排出する際の戸惑いになっています。

・何を集めてどうするかは市町村に任せ、最低限のルールを全国統一することが、もう少し必要です。

・「容器包装と同じプラスチックなのに、なぜ製品プラはだめなのか」という話になりがちです。製品プラを集めているところも少しずつ増えてきていますので、その違いを、市町村が市民へしっかりと情報提供していく必要があると思います。

・「うちの市では、こういう理由で分けます」ということを、市民に対して明確に情報提供すべきです。単に分別するだけの情報に留まっているから、混乱します。

・広報誌を見ない、町会に入らない若い世代が多いため、今後は町会ルートだけではなく若い層の方々や、地域で活動する組織への継続的な情報提供が必要です。

・店頭や拠点、集団回収等、様々な回収の仕組みを作っていますが、それを市町村がもう少し応援する形にしていくと、市町村での回収に大金を使わなくてもよくなるのではないかと考えます。

・真面目に3R や分別に取り組もうとすると、共通のルール作りが必要だと思います。

・容器包装だけではなく3R の状況をしっかりと伝え、その中で、容器包装が今、どのようなところにあるのかをアピールし伝えていく必要があるのではないのでしょうか。

○事業者への要望

・事業者の方々は環境配慮設計について、非常に頑張っていると思います。トレイの軽量化や製造工程のエコデザイン化等、頑張っているという説明を聞けばよく分かりますが、消費者にはなかなか伝わっていません。せっかく良いことをやっているのに、それを消費者に伝えないというのは、良いことをやっていない事業者と

同じになってしまい、世の中全体が環境配慮の方向に進みません。「良いことをしていると、伝えるまでもない」とおっしゃる事業者もいるでしょうが、相手に伝わって初めて、世の中全体が良い方向へ進むと思いますので、是非もっと色々なところでアピールして頂きたいです。

・リサイクルという言葉も、その時その時で最適なリサイクルはきっと変わってくると思います。設備の進化はもちろんのこと、求められる優先度も時代によって変わってくる。その都度、消費者に向けて的確な情報提供をして頂かないと、10年前のままで意識が変わらないということが起こってしまいます。リサイクルについて、消費者は「ごみを出す際、分別をすれば良いことをしている」と思いがちですが、事業者の考える環境配慮設計と同じで「3Rの優先度は、まずリデュースからだ」ということを、消費者にも伝えて欲しいと考えます。

○まとめ

・環境配慮設計に関し、企業側が様々な努力や工夫をされていますが、環境配慮設計そのものの基準や規格がない。A社とB社の努力の基準が違うかもしれません。その結果、商品を見て「これは環境配慮設計です」と分かれば、消費者もそれを選ぶようになるでしょうし、選ぶことがどういうことに繋がるかという点がまずは大切だと思います。

・容器包装の3Rやリサイクルのルールだけを見ていると非常に混乱しますが、今の社会全体の中で「容器包装がどのような役割を果たしているか。今後、容器包装がどのような方向に向かおうとしているのか」をもう少し明確にする必要があります。最も大切なのは、社会的コストを、これからどれだけ減らせるかだと思います。「5年後、10年度に、こういう形の容器包装の3Rを目指している」ということが私たち消費者にも分かれば、分別する意味がもっと理解できるでしょうし、当然のことながら、更に進んだ統一ルールができてくるのではないかと思います。

・事業者の素晴らしい情報を、私自身がこれまで見聞きすることがなかったことを非常に残念に感じました。自治体の方々が市民に向けて情報提供する際に、事業者の方と連携をすれば、素材を使った更に分かりやすい情報提供ができるのではないのでしょうか。是非連携をした情報発信をして頂きたいと思います。

・本日プレゼンテーションされた素晴らしい情報について、「例えば『リサイクルに不向きな時はどうしたらいいか』等、関係事業者間で、どれだけの情報交換がなされているのかな」と感じました。「どうして、そういった情報をもっと早く解決する方向に進められなかったのだろう」と。社会的コストを減らすために、改善に向けた情報交換をし、積極的に関わって頂きたいと思いますし、私たちが消費者として、それに関わっていきたくと思っています。

【質疑・意見交換】 時系列・テーマ別に整理

○容器利用事業者の取組みを消費者向けにどのように発信していけば良いのか。(容器利用事業者)

・環境報告書やCSRレポートの中に必ず取り入れ、NPOの方々と定期的にダイアログを設けて発信しています。消費者向けのもりですが、アナリストや専門家も意識しているため、いつも「小難しい」と言われます。2回程、一般消費者向けに取組んだことがあります。どうしても包装業界や学会がメインになってしまいます。

・単体ではなくグループ全体で皆様に伝えられる方法がないか。「再生素材を使用しました」「エコです」ということが分かるようなエコマークを考えて行こうと思っています。

○法令・国への要望として「汚れたもの、複合素材、塩ビ等に必要な統一ルール」とは。(消費者団体)

・消費者側から見たら、分けて出して良いものなのかどうかという分類のことで、取り上げているのは「分別する時に迷うもの」です。

・複合素材や塩ビ製品が「悪いもの」というイメージを、消費者に与えてはいけないと思います。分別に迷うし、リサイクルには向かないかもしれませんが、本来の機能としては非常に大切です。それをうまく情報提供しな

いと、聞いた消費者が「これは悪いもの」と感じてしまうと思います。

○再商品化事業者の実状を、市町村や市民にどうコミュニケーションしていけば良いのか。(再商品化事業者)

- ・材料リサイクルを行っている立場で、プロセスの中で、「どういうものがどれだけ入っていたか」や汚れ、材料リサイクルの効率等について、自治体の方とは個別にやり取りをしています。
- ・自治体ごとに考え方や方向性が異なるので、全ての市町村ではありません。
- ・そこから更に一般消費者まで伝わるようにするには、我々としては何をしたら良いと思いますか。
- ・市町村から聞くのは、啓発の対象が小学校5～6年生で、ご家庭の分別される場所まではテーマにはなっていません。
- ・「こんなものを入れられては困る」と市町村を責めているように受取られてしまうケースが何度かありました。
- ・何も問題が発生していなくても、情報共有する仕組みを作っておくことが重要になる。リサイクラー側のほうでも情報としてきちんと積上げて、それをどう使うかはまた考えなければいけませんが、少しずつ蓄積した情報を使いこなすことも踏まえながら取組んでいくことが重要ではないかと感じました。(有識者)

○小中学校向けの環境教育を通じた情報発信は。(市町村)

- ・事業者さんと接触するのは市町村の廃棄物関係部署が多いと思います。
- ・教育委員会は市長部局ではなく教育長の所管ですが、市の環境部で学習資料を作成しお渡ししています。ちょうど4～5年生に「私たちの町を知ろう」という単元があるので、ごみの出し方等についての資料を作りました。しかし使うかどうかは、その学校の先生次第です。「使ってください」とお願いして使っています。
- ・再商品化事業者も、地域の小学生の見学を受入れています。小学校へ出向いて出張講座をするケースもあります。小学校4～5年生が対象であるだけに、もう少しきちんとしたメッセージを入れたほうが良いと思います。例えば、注射の針や包丁が入っていることもあるということも伝えているのですが、それを市町村がどのように市民の啓発や情報発信に使うかが重要だと思います。(再商品化事業者)
- ・子ども向けということでは、当市では全小学校の4年生全員に環境副読本を配っています。またそれ以外にも、焼却工場等の施設見学を受入れており、各学校全てに対して毎年度お知らせし、施設を見学して頂いています。また、出前講座という形で学校近くの事務所から収集車を運び、収集の状況や分別時に注意すること等を啓発しております。一方、これは大人向けですが、市の収集に協力して頂く委嘱制度があって、その方達を市内外のリサイクル施設にバスでお連れすることもあります。

○消費者団体の方から流通業者や事業者に対するご要望が出ましたが。(流通事業者)

- ・流通業の立場で、環境情報を十分にお伝えしていないという現状認識です。
- ・カーボンオフセットのキャンペーンをはじめ、包装資材を削減した商品をPRしたり、事業者とタイアップをしながら行ったのですが、あまり成果は上がりませんでした。
- ・長いスパンで継続して取組んでいくことが非常に大事であると思っています。
- ・非常に限られたスペースで食品をセルフサービスで販売しているため、色々な表示…法的なものや価格、お客様が知りたい情報等があります。環境配慮についてどのような情報提供をするかについては大きな課題です。

○利用事業者が容器を選択する基準とは。(容器製造事業者)

- ・容器はプラ以外にも缶やガラスがあり、どのように選んでいるのかというと、基本的には入れるものに対する要求を満たすものです。
- ・お得意様である利用事業者に対する説明がかなり多くなってきます。一方的な説明の資料が多く、業界団

体でもそういうものばかりあるのが実態です。

- 中味優先です。例えば「もう少し〇〇を大事にしたい」と言われた場合「その場合の材料はどれがありますか」。そういう情報そのものが、やはり特許に絡むので、利用事業者さんとのノウハウとして開示しにくいところはあります。
- 容器製造事業者の立場で補足すると「説明が不十分」ということについては、確かにそうだと思っています。一般的な容器包装はこういうものでこういう機能が要求され、それを満たすためにこういうものとする。その場合、「中味やコスト、機能等を、バランスを持ってやります」というようなことを分かりやすく、消費者や市町村へどう伝えるかは課題です。
- 一方、「分かりやすい資料を作りましょう」と作りかけていますが、どこへ持っていかという情報を伝えるルートに悩んでしまいます。
- ものによって違いますが、機能を優先した結果、例えば「単一素材ではできないから複合に」となった場合、リサイクルの処理が難しいというのは、手法との関係に関わってきます。「全て材料リサイクルにしなければいけない」と考えた時に、向くか向かないかとなれば向かないが、サーマルやケミカルであれば問題ない。そこをどう評価するかです。
- LCA について、こちらの部分はこのくらいの効果がある、というようなことは議論しても良いと思いますが、「そちらを先に考えたら商品ができなかった」「コスト」がという問題になるのであれば、機能を優先します。
- 我々事業者も、環境配慮設計の指針を持っています。ものに対して、作り方に対して。当然、エネルギー効率等を考えますが、そのようなことを全部含めて、やはり分かりにくいです。
- 実態を理解頂かないと、基準は一つにはなりません。共通理解、相互理解がないと、具体論に進まないと思います。
- 食品で言うと、今までは中身の安心・安全をずっと優先していましたが、環境配慮についてはまさしく、どんどんやっているところだと思います。ただ言えるのは、再商品化について「材料リサイクルでなければいけない」ということを念頭に置いて作っているわけではない。これは分かって頂きたい。商品は、包材を含めてトータルで見えています。中身が一番重要です。
- 包装資材で一番問題になっているのが表示で、ここ数年、安全に対する多くの表示を求められています。包材を少なく・小さくして、その中に入りきれないとホームページに載せようと取組んでいます。それだと見る機会が少なくなります。
- プラマークの下の材質表示は、基本的には「使っている事業者がはっきりと分かるように」というマークで、「これによって分別しなさい」ということではありません。これを本当にそういう形にするかどうかは、まさしくこれからの議論で、今回の法改正時の一つの大きなテーマだと思っています。

○複合素材や PVC・PVDC の扱いは？（再商品化事業者）

- 私どもとしても、情報提供という意味では非常に足りないと感じております。
- 「複合素材の多層フィルムは少量なら混入しても処理可能とのことであるが、少量とはどのくらい？」という質問については、処理する上でのコストに反映してくるのであって、明確に何%以下と決まっているわけではありません。消費者も分別する時に「全体の1%」と言われても判断できないので、基本的には中身をきちんと使い切って、軽くすすいで出して頂ければ良いということです。
- 洗ったけれど汚れが取りきれないものについては、容器包装に入れて頂いて問題ありません。
- 積層フィルムと多層フィルムについてですが、全ての複合素材がリサイクルできないということではありません。例えば、プラを溶かした時にアルミや紙をメッシュで取ることは可能ですが、多ければメッシュの交換頻度が高くなってコストがかかる。なるべく減らして頂きたいけれど、入れてはだめということではなく、ゼロか 100 かの議論ではありません。
- PVC や PVDC は国の審議会や意見交換会の場でも情報を出していますが、今回のようなコミュニケーション

の場と、あとは個別に団体同士で話し合いを持って、地道にやっていくしかないと思いました。

○個々の容器包装が担保する機能の違いを認識して議論を進める(有識者)

食品の容器包装といっても、長期保存が必要とされるものとあまり必要のないものは、分けて議論するべきではないかと思っています。要求される機能も随分違いますし、酸素バリア性等が必要とされないものには、結果的に単一樹脂のものが多いと思います。「材料リサイクルできない」、片や「単一素材にしましょう」で議論が平行線になってしまうのは、ここを一緒に議論するからではないかと思っています。

○市町村からの広報手段は多面的に(市町村)

- ・広報の他タウン誌等に掲載して、30～40代の読者には周知をしています。一番悩ましいのは、若い層で、単身世帯やカップルでお住まいの方への啓発が、非常に難しいです。
- ・収集する市職員であれば、分別されていないごみ袋を開封して、排出者が分かれば訪問指導をしますが、たいていが単身世帯の学生やお勤め人です。
- ・情報の提供方法として、新たにワンルームマンションへのポスティングも開始しました。
- ・また外国人が多い地域では、国によって習慣が違うため、ごみに対する考え方も様々ですから、彼らにどうやって伝えるかについて非常に苦慮しています。
- ・分別を開始する時に、市が一生懸命にルールの説明会をしていました。その時に聞いた情報を、今もそのままの状況と理解している方が多い。新しい情報がなかなか伝わっていないのではないかと思います。(消費者団体)
- ・自治体に話を聞くと、人口が3万人前後と50万人を超すところでは、コミュニケーションの仕方が全く違うので、ルールを統一したほうがいいのか、それぞれに合ったルールを作ったほうがいいのかは、慎重に考えて頂いたほうが良いかと思っています。3万人のところは、コミュニケーションが非常に取りやすく、全てのプラを集めて油化にして自分たちで使うそうです。それ以上大きくなれば状況は違ってくると思います。(容器利用事業者)

【3回の意見交換会を終わって:参加メンバーの方からの感想】

【市町村】様々な立場の方が一堂に会して意見交換するのは、非常に良いと感じました。また、こういう機会を是非作って頂けたらと思います。最後に当市では、ごみの分け方・出し方に関する問合せがとても多いため、資源循環局において、ホームページ上での分別検索システム、例えば「洗面器」と入力すると「燃やすごみ」と検索されるシステムを作成しました。一度ご覧頂いて「こうすればもっと使いやすい」等、アドバイスがあればご連絡頂ければと思います。

【市町村】このような情報の共有化は非常に大切だと思いました。以前広報紙で、事業者さんにおける容器包装のあり方に関する考えをお聞きしましたが、今後も更に力を入れていきたいと考えております。また、この意見交換会には2つの市町村しか出席していませんが、前回から関係団体にオブザーバーとして参加頂きました。その団体を通して、他の市町村へもフィードバックして頂ければと思います。

【再商品化事業者】3回に亘り意見交換をさせて頂き、非常に有意義だったのですが、これを実際の活動にどう反映させれば良いか悩んでおります。今後は個別に各団体を訪問させて頂き、こちら意見書のようなものを作りながら情報交換をしていくしかないと思います。

【再商品化事業者】審議会等で、このような意見交換の場を設けて頂くよう要望をした者の1人として、事務局をはじめ皆様方にお礼を申し上げます。審議会ではもう少し具体的な話ができるかとイメージしていたのです

が、実際には、関係各主体の相互理解ができていなかったという点が分かったことが、今回の1番大きな成果だと思います。前回、特定事業者さんの「個別議論していかないと、一つひとつの問題は解決しない」とのご意見が大きなヒントになり、複合素材等の細かい議論は一つひとつの積み重ねなのかなど、再商品化事業者の立場として認識させて頂きました。今後、具体的な話をどのように進めていくかが我々の課題の一つだと思いますので、そういったところでご協力頂ければ幸いです。また当社は、再商品化事業以外に、市町村の委託を受けて収集運搬や適合化を実施しており、半分は市町村さんの立場でも業務を行っておりますが、市民への啓発については、やはり過渡期なのかなど考えております。所在地の市は平成15年から分別収集がスタートしましたが、その年に小学校の社会科見学で来た10歳の子どもが、今、ようやく18歳です。当たり前に分別する世代がやっと社会に出てきたところで、今後は更に増えていくでしょう。そういった視点で社会科見学を受入れていますし、今後も啓発活動を続けていきたいと考えます。

【容器製造事業者】この意見交換会を通して、非常に勉強になり刺激を受けました。容器製造等事業者の集まりの中で、改めて容器の環境配慮等々を議論しております。この場で感じたのは「ここから先は個別論議をしていかないと、実績を上げられないだろう」ということ。先程も申し上げたように、これで終わることのないよう、これを機会に、環境配慮だけでなく、次に繋がっていけば良いと思います。主体間連携の前にまずは理解だと考えますので、行政や消費者、そして事業者が情報交換し、相互理解できるようにしていく必要があります。個別には、企業として市民教育のようなことをかなり行っております。このような論議の中で、もう一度見直してみると、それなりに視野が広がるのではないのでしょうか。子どもたちに伝えていくことについて、主流にはならないと思いますが、我々もかなりやっておりますので、テーブルに載せてお話ができると良いのではないかと思います。

【容器製造事業者】消費者との接点が薄いこともあって、非常に参考になります。個別の論議は絶対に必要ですが、組み合わせだけでも難しい状況です。消費者団体による国への要望はまさしくその通りで、リードを取って頂き、中身については、知っている者同士が具体的に決めていきたいと思っております。

【容器利用事業者】3回の中で様々な立場からのお話を聞き、非常に考えさせられました。我々は確かに消費者の皆様へ工場を開放してきていますが、本当に伝えなければいけないこと、皆さんが本当に欲しがっていることではなく、どちらかというと、安心・安全だけで来ていたかなど、少し気になった次第です。それを達成するために「こういう工夫をしています」と仕掛けは作ってありますが、更に微調整して、消費者もしくは流通等、色々な方々への情報提供のきっかけになればと思います。また、去年もしくはその前から、消費者代表の方々の活動に、極力参加するようにしております。我々是对立するのではなく、一緒に社会を回していきたいという立場で考えておりますので、微力ながら色々なことに取組んでいきたいと思っております。

【容器利用事業者】容器利用事業者の一人として、特に本日、消費者団体の方からの分かりやすいご説明を聞き、もったもたなど感じました。「事業者として情報提供が不十分」とのこと、その通りだと思いつつ、一方で消費者団体の方はだいぶ理解してくださっているが、一般の方々は全然興味がないだろうという感覚があります。「安全は与えられて当たり前」くらいの感覚があるだろうと。廃棄という段階で、あれが問題・これが問題と言われると、「そこだけがクローズアップされ過ぎて周りが見えない」というと怒られるかもしれませんが、そのような状況でものが言われてしまう、そのような状況でどうやって情報提供すれば良いのか、ということが非常に大きな長期的課題かなどと思います。もう一点。要求される項目が大きく違う分野のものを一緒に扱うことについては、「どうもおかしいな」と思っています。例えばレジ袋は、日用品・食品メーカーの容器包装とは、かなりレベルが違います。「対象を分けて考えるべき」です。そういったものを対象に、材料リサイクルはどうあるべきか、その他プラスチックは本来どうあるべきか。行政の方には、5～10年先の循環型社会の中で「どうあるべ

き」ということを示して頂ければ有り難いと思います。

【容器利用事業者】このような場で、お互いに意見を言えることが一番良かったと思い、大変感謝しております。皆様の意見をお聞きし、非常に参考になることがありましたし、我々自身も若干誤解している部分があったことを反省しています。今の容リ制度は、かなり縛られていて、あまり色々なことができません。しかし過去からだいぶ変わってきたので、色々なことをテストして検証したいのですが、今の制度では、ほとんどのことができません。もし可能であれば、容リ協が扱っている再商品化のための費用のうち、事業者への精算金の一部をテストに使えるのであれば、「シェアして皆さんで取組みましょう」と主導力を発揮して頂いても良いのではないのでしょうか。利用事業者の立場からみれば、「うまくそれを使って」と思います。法の壁に若干穴を開けても良いから、実務的に取組むことができる方向に進めて頂ければ、また違ったことができるのではないかと思います。

【容器利用事業者】私自身、大変勉強になりました。特に考えさせられたのは、コミュニケーションというテーマ。一つは皆さんがおっしゃるように、事業者や行政、消費者団体の皆様が、訳あって対応をされていることを理解した上で意見を言わないと、具体的な改善に進まないということです。お互いの取組みを理解した上でのコミュニケーションは非常に大切だと思います。もう一つは、消費者へいかにお伝えしていくか。一方的に環境配慮設計や環境指針だけを伝えたのでは納得頂けない。「そんなにエコ・アクティブではないけれど」という方々に、どのようにアプローチするかということが課題となっています。例えば、価格の安い商品があって、その裏付けとして「包材を削減しました、だから合理的に、商品面の品質を保ちながら安く提供できました」等、安さとリンクしてお伝えする、というような単に一番前に出すのではなく、見せ方の工夫が必要だろうと。一部で既に実施しておりますが、そのようなことを考えさせられる場でした。

【消費者団体】非常に勉強になりましたが、最初の1・2回目は消費者が蚊帳の外というか、事業者間のやりとりを「ああ、そうなのか」と眺めていて、3回目にやっと参加できたかなと感じております。消費者も考えなければいけないことが多くあって、環境配慮でありながら、日持ちが良くなる。また、個包装化されるのは、消費者にとって利便性があるからで、消費者の言っていることと事業者の進む方向が逆行しているというか。「消費者はどこまで利便性を求めていくのか、それによって何が起こるのか」まで考えなければいけないと思いながら、お話を伺っていました。

【消費者団体】知らないことがたくさんあったと思っています。環境配慮設計については、「気に入った商品、おいしいものを選んだら環境配慮設計だった」という状況であることが、将来的に必要なことだと思います。消費者が積極的に関わっていくことに繋がると思いますので、これからも宜しく願いいたします。

【有識者】3点程申し上げたいと思います。まず今後の方向性としては、もう少し既存のインフラを使うということ。例えば「この地域に製鉄所はあるのか・ないのか」「リサイクラーはどこに立地しているか」等、そういった背景を含めて、ある意味、ベストミックスを作り上げていくことが必要です。2つ目は、消費者への情報発信について、我々も色々取組んでいますが、「国民」「市民」という単位で訴えても、なかなか効き目がありません。容リの話ではありませんが、まず全年代、女性と男性ではっきりと意識が分かります。一番意識が低いのは20代男性の一人暮らしで、意識が高いのは、20～30代女性の世帯を持っている方です。結局、意識が高い層を引っ張りたいたいのか、一番低い層を引き上げたいのかによって、出す情報は変わってきます。私も毎年、大学で環境学習プログラムを学生と行っていますが、今の小学生はレジ袋を断るのが当たり前になっており、そういう意味では消費者はどんどん成長していく。そのような視点も持つておかなければならない。もう一つは、私の住む新宿区も外国人が多いのですが、時々、やってはいけないことをやってしまうことがある。燃えるご

みの日に不燃ごみを出す等、このようなことも含めて、情報提供のあり方を、考えながら取組まないと、同じ議論を繰返すだけになってしまうと思います。最後に研究者の立場から。これは容りだけに限らない話だと思いますが、もう少し製品の特性等を類型化しながら、最適なシステムに繋げるような方法論が必要だということ、総合的な評価をどのように実施するか。なんでもかんでも LCA に行き着くのは良くないと思っております、評価の方法論をもう少し評価すべきであると感じています。

【有識者】前回、「ケミカルリサイクルにはトレーサビリティが欠けている」という主旨で質問したと一部で思われたようですが、そうではありません。私がトレーサビリティという言葉の使い方を間違えていたからなのですが、マテリアルリサイクルは「ここに入れたら、これが出てきた」と分かりやすい。ケミカルリサイクルについて、「そうじゃないと、リサイクルはだめ」と言っているのではなくて、より分かりやすい説明が求められるであろうから、「分かりやすい説明を、どのようになされているのですか」といった質問でした。少なくとも、トレーサビリティが無いという主旨ではなかったことをご理解ください。関連して、プラスチックがプラスチックに戻ることだけが大事なのか、については議論しなければならないと思っています。前回、容器製造事業者の方がプラスチックに戻ることをアピールされていたことに、逆に違和感がありまして、そこをアピールしなくても、コークス炉化学原料化には資源を有効利用する、他の化学原料の材料にもなるし、還元材にもなるし、もっと良い面がたくさんある。私個人としては、前回の容器製造事業者による取組み(自主回収とケミカルリサイクル)の一番良いところは、自社の製品を自社でしっかりと回収して、責任を持ってリサイクルしていることだと思うので、ケミカルリサイクルを実施されている事業者が、プラスチックに戻ることをアピールしてしまうと、議論が戻ってしまうような気がします。

⇒こだわっているのではなく「食品包装に戻すことはかなり大変だ」ということを言いたいのです。リサイクルした材料が、全く元と同じところへ戻るというのはレアな話で、そこまで出来るよということが言いたい。通常は、全く同じ材料へ戻ってくるというのは、常識論的にあり得ない。特に、食品包装はそうであろうと。ところが、ケミカルリサイクル手法を取れば、収率は違うが同じところへ戻ってくる。そこに着目しています。こだわっているというよりも、グレードの高い食品包装まで戻せるというところに、評価軸を置いてものを見ています(該当の容器製造事業者)

最後に刺々しいことを言うようで申し訳ないのですが、先程から「誤解が解けた」「分かりやすかった」という話になっていますが、敢えて「それでいいの?」と言いたいです。この場で皆さんが納得されることと、社会全体としてコストを安くすることや環境負荷を減らすことは、必ずしも方向性が一致するわけではないと思います。この場で「納得できた」「分かりやすくて良かった」で話を終わらせずに、より社会全体としてのコストなり環境負荷なりを下げるという議論を、今後も続けなければいけないと思っています。

【有識者】様々な立場の方が意見を交換する場として、非常に楽しく参加させて頂きました。特に、情報交換を通じてどういう情報の出し方をしたらいいか、おそらく各々感じる場所があり、コミュニケーションのあり方として、どうしたら良いかというところで、課題が見えてきたのかなと、私にとっては大きな収穫でした。コミュニケーションのあり方というのは、単に環境配慮をどう伝えるかだけでなく、色々なところに応用できると思いますので、是非このような機会を通じて、様々な方と意見交換をしながら積上げていければ良いと感じた次第です。この意見交換会は環境配慮設計が入っていますが、例えば、どういうリサイクル手法とするかによっても違うでしょうし、何をもちいて環境配慮とするかについては、ごみを減らすこと以外にも色々出てくると思います。これをまずは最初のステップにして、個別の議論の中で広げていけたら良いと思います。有り難うございました。

以上